

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---|-------|-----------|
| 事業所番号 | 3471502595 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人フェニックス | | |
| 事業所名 | グループホームサンフェニックス | | |
| 所在地 (電話番号) | 福山市瀬戸町地頭分字小立2721番地 (電話) 084-949-2585 | | |
| 評価機関名 | 社団法人広島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 広島市南区皆実町一丁目6-29 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年1月14日 | 評価確定日 | 平成21年3月4日 |

【情報提供票より】(H20年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 3 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 21 人 | 常勤 19 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 20.3 人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------------|-------------|
| 建物形態 | 併設 | 新築 |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | |
| | 3 階建ての | 1 階 ~ 3 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 55,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,500 円 | | |

(4) 利用者の概要(H12月25日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 5 名 | 女性 22 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 6 名 |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 7 名 |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 68 歳 | 最高 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------------|
| 協力医療機関名 | 花園クリニック・大石病院・寺岡整形外科病院・高橋眼科 |
|---------|----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「サンフェニックス」は、社会福祉法人が母体であり、団地の丘台に位置して見晴らしが良い、3ユニット(27人)のホームである。併設施設には、法人母体の特別養護老人ホームを中心に、各種サービス(ショートステイ・ケアハウス・デイサービス・ホームサービス・居宅介護支援事業所・支援センター)が併設している。この大規模施設の在り方を活かし、各事業所との連携や協力体制などが整備されていた。ホーム独自の「ゆったりと寄り添い、思いやりの介護を提供する」理念のもと、各職員がホームを良くしようという姿勢が伺われ、利用者への一人ひとりに対しての個別支援がされていることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、特に改善点などは無いが、今後も地域との連携や運営推進会議などを積極的に進め、参加者からの気づきや知恵を得ながら、運営される事を望みます。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 3ユニットでチーフ制を設けてあり、これからはこのチーフがホームの”要”となるので、他の職員の育成なども踏まえ、この自己評価を有意義に活用されて利用者への支援に取り組む事を望みます。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームなどの活動内容を報告し、改善についての意見交換を実施している。現状の維持に努め、参加者からの意見や要望などを得ながらサービスの確保を図る目的があるので、今後も会議の意義や目的を明確にし、より良い会議となるよう期待します。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に毎月ホームでの生活状況や健康状況を報告している。面会時や年2回の家族会を実施するなかで、意見や不満などの話し合いが出来るように努力されている。問題などあれば職員間が討議し、それを活かしホームの運営に繋げている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に参加をしたり、法人母体の開催される行事などにも参加する機会を多く設けている。ホームは地域に開かれた運営という目的があるので、今後も地域との積極的な連携を図ることにより、更なる利用者の生活の幅が広がる事を期待します。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業所独自の「ゆったりと寄り添い、思いやりの介護を提供する」理念をつくりあげ、職員一人ひとりが活かす努力がされている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員一人ひとりが理念を共有が出来るように定期的にユニット会議を開催し、共通理解ができるように努力されている。利用者の尊厳を守り、自立支援に向けた暮らしが出来るようにサポートしているのが伺えた。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事に参加したり、交流の一環として住民と施設で合同の避難訓練を実施した。今後も現状維持に努め、地域密着型サービスとして更なる交流を図られる事を期待します。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の大切さを認識されており、運営推進会議でも報告し改善に取り組んでいる。 | | 自己評価については、現状として、各ユニットチーフの下で評価されている。自己評価の意義あるいは目的を認識し、全職員で取り組みサービスの質の確保に努める事を望みます。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の目的でもあるように、事業所の活動内容などを明示し、参加された方々からの助言などを得ながら運営に取り組まれた体制づくりが出来ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域高齢者を対象とした認知症予防についての講演を行い、理解を得るように努力されている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、職員が手紙にてホームでの生活状況を報告している。日々の生活状況で変わった事や、面会時などで常日頃、家族等への報告は欠かさず行っている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や家族会、また面会時などで常に聞き出す努力がされている。意見や要望なども職員間でしっかりと話し合いが行い運営に活かしている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 併設事業所との交流を通じて、人間関をつくり、またやむを得ず職員が変わる場合は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部・外部研修と積極的に研鑽され、職員一人ひとりの質をあげる努力がされている。今後も各チームが中核となり、法人母体の理念「利用者の為の施設づくり」を実現するためにはどうしたら良いのかを明確にし、職員一人ひとりを育てるといった目的のもと、人材育成にも努められる事を望みます。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同法人事業所や他のホームとの密な交流をもつことにより、サービスの向上を目指している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>利用開始前に、ホームを見学などして頂いて、本人や家族の意向を確認している。今後もリロケーションダメージを防ぐためにもより良い支援がされるよう望みます。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>事業所独自の「ゆったりと寄り添い、思いやりの介護を提供する」理念を実現するために、利用者本位の支援を行っている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>利用者の楽しみを見つけ、日々の生活のなかで共に支え合う関係作りが出来ている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>事業所は、介護計画をもとに支援するという認識のもと具体的な介護計画を作成されている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>日々の申し送りやミーティングなどで、必要に応じて意見交換し、家族に相談しながら計画・見直しをしている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる | 大規模法人事業所の機能を活かして、一人ひとりの ニーズに沿った支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族等が希望するかかりつけ医や医療機関 に合わせた適切な医療を受けいる。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している | 重度化した利用者の終末期の意向を家族等と面談し、 書面で聞き取りをしている。ホームとして最大限可能な 支援方法を踏まえ支援している。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない | プライバシーの確保や個人情報の取り扱いなどチーム で共有している。利用者個々の状況を把握され「目配 り・気配り・声配り」と支援されているのが伺えた。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 「ゆったりと寄り添い、思いやりの介護をする」とい事業 所独自の理念のもと、利用者一人ひとりのペースを大 切にした支援をされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|-----|---|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々の利用者の身体状況により、食材の盛り付けや片付けを手伝ってもらっている。現状では食事時は、職員と一緒に食事を摂っていない状況がある。 | | 全職員が話し合いを行うなかで食事は、その人にとって楽しみをもたらす事と意識しながら、今後対応可能であれば職員も同じ時間に同じ食事をされる事を希望します。 |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 重度でホーム内の入浴が難しい方は曜日や時間帯で入浴を決めている。他の方は、習慣や希望に合わせて柔軟に支援されている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ケアの視点である「本人の可能性を奪わない」支援のもと、利用者一人ひとりの楽しみごとや、役割をみつけながら支援されている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や本人の心身状況などに配慮しながら、散歩や外出など出掛けている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 安全面として玄関に開閉する電子ロック式で対応している。 | | 個々の利用者の状況を把握するなかで、やむを得ない時以外は鍵を掛けないよう努力される事を望みます。この件については家族会や運営推進会議などで議題として取り上げ、皆様のお知恵を頂き、支援される事を望みます。 |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の実践的防災訓練を実施したり、地域との合同避難訓練も実施している。災害時には、ホームは地域の拠点となるため、今後も地域との協力体制作りに努める事を期待します。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 併設施設の管理栄養士により、バランスのとれた食事提供されている。栄養のバランスや水分量を全職員意識しながら行っている。毎月1回の体重測定も行い、本人の栄養摂取量に見合った食事の提供をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビや音楽の音量にも気を付けている。飾り付けに関しても季節感を取り入れ、とても居心地がよい生活空間である。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具や装飾品など持ち込まれていた。新規入居時にも不適應を起こさないよう環境調整されている。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス あやめ

評価年月日 平成 20 年 12 月 10 日

記入年月日 平成 20 年 12 月 25 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 田原 佳代子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」を理念とし、その人らしく生活できるように支援している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | ホームの理念を具体化し、職員一人ひとりが共通の理解ができるようにしている。 | | 職員一人ひとりが理念の共有が出来るよう定期的にユニット会議を実施し、共通の理解が出来るようにしていく。 |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や家族会、入所時などの機会に理解を促している。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|------------------------------------|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 併設施設との入居者や地域住民とは散歩や行事等の参加で交流をしている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域交流の一環として地域住民と施設で合同の避難訓練を実施した。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 坂道が多い団地内の高齢者が地震や火災の時に混乱しないよう、施設が協力できることを地域代表と話し合い合同の避難訓練を実施した。 | | |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 自己評価を実施することで、ホームの役割を職員が再認識できている。評価は運営推進会議で報告し、改善については多方面からの意見を取り入れ取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議で評価報告し、改善についての意見交換を実施している。意見ですぐに取り組めることは実施している。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 地域高齢者を対象とした認知症予防についての講演を行い、認知症の理解を促した。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 入居者の必要性に応じて家族と話し合い支援している。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束委員会を設置し、実行委員のメンバーであるユニットチーフが入居者の変化や職員の対応などについて注意を払い、疑問が生じた場合は各ユニットチーフで話し合いを持つようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約、解約時には入居者や家族が不安にならないように説明し、解約後でも分からないことなどは相談してもらえようとしている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 入居者の不満などを聞く機会は設けていない。ただし、日々の生活の中で、入居者の表情や言動に注意し意見として運営に反映させている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 月に1回の月間報告で、生活状況や健康状態など知らせている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 面会時や家族会で家族の意見を聞くようになっている。不満や苦情に対しては迅速に解決できるようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ユニットチーフが日々、職員の意見や提案を聞き取られるようコミュニケーションをとり、管理者や代表者に申し送りし、検討できるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入居者の要望や状況での時間確保はできるだけ調整している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>ホーム内での移動は定期的実施している。入居者にダメージがないようにユニット間の申し送りや応援体制で顔なじみになれるよう配慮している。職員の離職の軽減の為、定期的に個人面談を実施している。</p> | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p> | <p>年間を通して内部、外部の研修をに参加できるように実施している。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>認知症実践者研修生の受け入れで交流のきっかけづくりをしている。研修などの参加で意見交換や情報交換を行っている。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>職員の意見を柔軟に取り入れる姿勢で臨んでいる。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>年に3回の査定を実施し、給料や昇給に活かしている。研修などを実施することで職員の向上心が持てるようにしている。</p> | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>入居前に事前面接を行い、本人、家族から十分に話を聞き受け入れをしている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話を聞く機会を設け、今後のことを一緒に考えるように努力している。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 入所申し込み時、今受けているサービス内容に不満や不安を漏らされたことから他の介護サービスの検討と一緒にサービス利用ができるようにした。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | ご本人の性格や今までの生活状況から、雰囲気に馴染むよう見学や遊びに来れる支援体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は一方的に介護を押し付けるようなことをせず、入居者が必要としていることを「お互い様」の気持ちで支え合うようにしている。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族面会や連絡時に入居者の状況や日常の様子を知らせ入居者が必要としていることでホームで実現が難しいことなどは家族に協力を得ている。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 家族会や施設行事の参加で一緒に過ごす機会を作る努力をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 30 | <p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> | <p>入居者や家族と状況に応じた対応に心がけている。</p> | | |
| 31 | <p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> | <p>日頃の家事の手伝いなどで入居者同士がお互いの持てる力を出し協力し合っている。</p> | | |
| 32 | <p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> | <p>契約が終了しても家族からの相談などの対応は大切にしている。入院が長期になった方は、機会があれば面会し状況を把握している。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div> | | | | |
| <p>1 一人ひとりの把握</p> | | | | |
| 33 | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>入居者や家族からの情報収集や日常生活から本人の思いを汲み取りできる限りの支援に努めている。</p> | | |
| 34 | <p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p> | <p>センター方式を利用し情報収集の把握を行なっている。</p> | | |
| 35 | <p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p> | <p>一日の介護記録で入居者の健康面、心身状態、役割の参加などを記録し職員が把握できるようにしている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|---|---|-------------------|--|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者が生き生きと生活を継続できるように 本人の持っている力や能力を活用できるような介護計画が作成できるようにしている。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 介護計画の期間に沿っての見直しは実施しているが、状況の変化が生じた場合は対応はできていても計画書ができていない場合がある。 | | 状況に応じた計画の見直し、計画書の作成をしていく。 |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | ケアの実践や結果、気づきなど分かりやすく記入し、職員全員に伝わるようにしている。 | | 入居者の状態の変化や気づきの記入漏れが起きないように記録方法の見直しを検討していく。 |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域のボランティア活動や保育所の慰問行事で入居者の楽しみや交流の支援を行なっている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他の施設との相談員をサービス支援の相談や協力体制はできている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 必要に応じて対応していく体制はできている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 家族の意向に沿うようにしている。入居者の状態に応じた受診を家族に説明し納得していただき支援している。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 囑託医の定期的な回診で、入居者の状態を相談や助言、指示を受けている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師が常勤で勤務し、日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行なっている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入居者の性格や日常の様子を申し送りをしている。定期的な面会で状況に応じた対応をしていきたい。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|-----------------------|---|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>重度化した入居者の終末期の意向を書面で聞き取りしている。入居者の意向を職員が共有できるよう書面を計画書に貼付する。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>入居者の状況変化で対応できるように、看護師がかかりつけ医と連携をとっている。変化に対しての対応はカンファレンスで職員が状況に応じての対応ができるようにしている。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>情報提供を十分にいき情報交換に努めています。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>個々の入居者に応じた対応に注意しています。入居者の状態に応じた対応が職員の一方的な考えで配慮を損なわないようにしています。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>本人の希望に沿えるよう努力している。自己決定が難しい方は日頃の言動や仕草で判断し対応している。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>職員の業務や都合が優先した対応になりがちになっている。</p> | | <p>入居者の体調や精神状態を考慮し、その日の希望に沿った対応ができるように心がけていく。</p> |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|--------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 入居者の好みを大切にし、服装や髪型へのアドバイスをしている。理美容については併設施設の理容室で本人の意見を聞きながら行なっている。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 個々の入居者の状態や身体機能を見極め、準備や片付けを手伝ってもらっている。食事は、職員と一緒に摂っていないので味付け等の把握ができていない。 | | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 施設から提供されるものを摂っていただいている。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。できる限り、紙おむつの使用は避け、布パンツで装着時の違和感を軽減する対応をしている。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 重度でホーム内の入浴が難しい方は曜日や時間帯で入浴を決めている。その他の方は、本人の意向を大切にしている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 個々の身体状況や睡眠状態に応じて対応している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|--------------------|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。 | 一日の生活がその人らしく生活できるように状況を見ながら対応している。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 金銭管理については家族の希望により、個々の力量に合わせた管理をしていただく体制となっている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 散歩は入居者の希望に沿ってできる限り支援している。その日の本人希望に沿った買い物や外出は予定が立てられていないと難しいところがある。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 個別対応として家族の結婚式や自宅に帰り家族と過ごせる機会を支援しています。事前に家族と日程を調整している。 | | 個々の力量に合わせて季節ごとの挨拶が出来るよう支援していきたい。 |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 要望があれば支援できる体制はある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族やなじみの人が来所された時は、職員は笑顔で明るく接するようにしています。また、来訪者と入居者が気兼ねなく過ごせるような環境をつくっています。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-----------------------|---|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | ユニットチーフが身体拘束委員となり、職員のケアに対して身体拘束をしないケアの取り組みを状況に応じて指導している。 | | 定期的な勉強会で身体拘束や虐待の理解を深める体制を整えていく。 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 入居者の状況で入り口に鍵を閉めている。 | | 鍵をかけないで対応できるようなケアが実践できるように個々の入居者の行動を職員が把握できるような体制を検討する。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は入居者一人ひとりの行動パターンを把握し昼夜を通して見守りを行なっている。夜間は、1時間ごと巡回で安全に配慮している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 刃物などの危険なものは、職員の目が届かない時間帯は鍵をかけて管理している。その他の個々の持ち物はその方の状況で預かることもある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 緊急時のマニュアルがあり職員が内容を把握し、定期的な研修で事故防止に努めている。ヒヤリハットやアクシデントレポートの提出で事故の把握をし、事故に応じた対応方法を部署外の会議で検討、多くの意見を参考にできる体制がある。 | | |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 入居者の状況に応じて、看護師が指導している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回の防災訓練を併設施設と行なっている。地域との合同の非難訓練を実施した。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | 入居時や個人の身体状態によって転倒や誤えんなどの起こり得るリスクを説明し、対応方法については入居者らしくを暮らせる対応に心がけている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 定期的な健康観察と看護師の巡回で変化や異変が対応できるようにしている。情報の共有ができるよう対応したことは記録に残し共有できるようにしている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 投薬シートを作成し、個々の薬の状況が把握できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便習慣を把握し、状況に応じて散歩や水分補給で便秘の予防に努めている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 1日4回、起床時、食後にうがい歯磨きを実施している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 併設施設の管理栄養士により、栄養バランスの摂れた食事の提供を行なっている。食事量や形態については個々の状態に合わせた対応をしている。水分量が不足する方は嗜好に応じた対応をしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | 感染マニュアルを作成し対応している。状況に応じて看護師が予防や対応方法について指導している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 食材の取扱時は、使い捨て手袋の着用を実施している。夜間、冷蔵庫内は消毒し、食料の管理を行い安全な使用ができるように努めている。 | | |
| <p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p> | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関先に植物や利用者の作品を展示している。季節ごとの花や植物を植えるようにしている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 季節や生活スペースとして居心地が良い空間づくりに配慮している。玄関先は施設的な作りになっている。 | | 玄関周りを落ち着いた雰囲気にする為に職員で工夫をしていきたい。 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共用のリビング以外にも、廊下を利用したたみコーナーやテーブルや椅子を配置し過ごせるようにしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 馴染みの家具や装飾品の持ちこみを契約時に説明している。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 各居室に換気扇を設置、共同空間には空調設備や冷暖房の設備が整え、温度管理をしている。定期的に換気を行っている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 廊下や要所ごとに手すりを設置している。入居者の身長などに合わせトイレに踏み台を設置し便座の高さの調整を行っている。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室やトイレ、浴室に表札やその方の理解できる目印をつけ場所の混乱を防いでいる。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 入居者が行き来しやすい場所に物干しを作り一緒に取り組めるようにしている。状況によっては廊下に物干しを設置し入居者が一緒に取り組めるようにしている。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス もくれん

評価年月日 平成 20 年 12 月 10 日

記入年月日 平成 20 年 12 月 25 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 看護師 氏名 北村 武夫

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」を理念とし、その人らしく生活できるように支援している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | ホームの理念を具体化し、職員一人ひとりが共通の理解ができるようにしている。 | | 職員一人ひとりが理念の共有が出来るよう定期的にユニット会議を実施し、共通の理解が出来るようにしていく。 |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や家族会、入所時などの機会に理解を促している。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|------------------------------------|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 併設施設との入居者や地域住民とは散歩や行事等の参加で交流をしている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域交流の一環として地域住民と施設で合同の避難訓練を実施した。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 坂道が多い団地内の高齢者が地震や火災の時に混乱しないよう、施設が協力できることを地域代表と話し合い合同の避難訓練を実施した。 | | |
| 3 理念を实践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 自己評価を実施することで、ホームの役割を職員が再認識できている。評価は運営推進会議で報告し、改善については多方面からの意見を取り入れ取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議で評価報告し、改善についての意見交換を実施している。意見ですぐに取り組めることは実施している。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 地域高齢者を対象とした認知症予防についての講演を行い、認知症の理解を促した。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 入居者の必要性に応じて家族と話し合い支援している。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束委員会を設置し、実行委員のメンバーであるユニットチーフが入居者の変化や職員の対応などについて注意を払い、疑問が生じた場合は各ユニットチーフで話し合いを持つようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約、解約時には入居者や家族が不安にならないように説明し、解約後でも分からないことなどは相談してもらえようとしている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 入居者の不満などを聞く機会は設けていない。ただし、日々の生活の中で、入居者の表情や言動に注意し意見として運営に反映させている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 月に1回の月間報告で、生活状況や健康状態など知らせている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 面会時や家族会で家族の意見を聞くようになっている。不満や苦情に対しては迅速に解決できるようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ユニットチーフが日々、職員の意見や提案を聞き取られるようコミュニケーションをとり、管理者や代表者に申し送りし、検討できるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入居者の要望や状況での時間確保はできるだけ調整している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>ホーム内での移動は定期的実施している。入居者にダメージがないようにユニット間の申し送りや応援体制で顔なじみになれるよう配慮している。職員の離職の軽減の為、定期的に個人面談を実施している。</p> | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> | <p>年間を通して内部、外部の研修をに参加できるように実施している。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>認知症実践者研修生の受け入れで交流のきっかけづくりをしている。研修などの参加で意見交換や情報交換を行っている。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>職員の意見を柔軟に取り入れる姿勢で臨んでいる。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>年に3回の査定を実施し、給料や昇給に活かしている。研修などを実施することで職員の向上心が持てるようにしている。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div> | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>入居前に事前面接を行い、本人、家族から十分に話を聞き受け入れをしている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|---|--|-------------------|--|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話を聞く機会を設け、今後のことを一緒に考えるように努力している。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 相談内容により適した対応ができるように努めている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | ご本人の性格や今までの生活状況から、雰囲気に馴染むよう見学や遊びに来れる支援体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日常会話の中から学んだり、共感しあい一緒にできることはできる限り一緒に行い、お互いが必要だと思える関係を築いている。 | | マニュアルの見直しを再検討し、入居者とゆっくりと接することができるよう ゆとりの時間を検討していく。 |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族面会や連絡時に入居者の状況や日常の様子を知らせている。伝えたいことや変わったことがあればその都度知らせている。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 面会時、家族とコミュニケーションをとり 入所者の日常を伝えるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|---|-----------------------|---------------------------------|
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 自由に面会して頂き、馴染みの方との交流が持てるように地域の行事への参加をしている。 | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 利用者が集まり過ごせる空間を提供し、孤立している入居者に対しては職員が中に入り利用者同士の関わりが持てるように努めている。 | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 契約が終了しても家族からの相談などの対応は大切にしている。入院が長期になった方は、機会があれば面会し状況を把握している。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 入居者や家族からの情報収集や日常生活から本人の思いを汲み取り、できる限りの支援に努めている。 | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | センター方式を利用し情報収集の把握を行なっている。職員全員が情報を共有し、把握できるようにしている。 | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 一日の介護記録で入居者の健康面、心身状態、役割の参加などを記録し職員が把握できるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|---|--|-------------------|---|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者が生き生きと生活を継続できるように 本人の持っている力や能力を活用できるような介護計画が作成できるようにしている。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月単位で見直しを行い、現状に即した計画作成をしている。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個々にケアの実践、結果、気づきを記入し、特記事項を別途用紙に記入し職員の情報の共有をしている。 | | 日々の様子、会話、結果を詳しく記入し、介護計画に活かしていきたい。 |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域の方、ボランティアの方の協力により 本人の意向にできる限り応じた支援をしている。 | | 入居者の意向にそっていない部分があるので今後は、個々に意見を聞きながら取り組んでいきたい。 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他の施設との相談員をサービス支援の相談や協力体制はできている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 必要に応じて対応していく体制はできている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 家族の意向に沿うようにしている。入居者の状態に応じた受診を家族に説明し納得していただき支援している。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 囑託医の定期的な回診で、入居者の状態を相談や助言、指示を受けている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師が常勤で勤務し、日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行なっている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入居者の性格や日常の様子を申し送りをしている。定期的な面会で状況に応じた対応をしていきたい。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|-----------------------|--|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>重度化した入居者の終末期の意向を書面で聞き取りしている。入居者の意向を職員が共有できるよう書面を計画書に貼付する。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>入居者の状況変化で対応できるように、看護師がかかりつけ医と連携をとっている。変化に対しての対応はカンファレンスで職員が状況に応じての対応ができるようにしている。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>情報提供を十分に行い情報交換に努めています。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | | | |
| <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>プライドを傷つけないような声かけや目上の方に対する言葉使いで対応するよう心がけている。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>入居者の話を傾聴し、納得しながら暮らせるようにしているが、業務が優先してしまうことがある。</p> | | <p>1日一回はゆっくりと入居者とコミュニケーションが取れる時間を検討していきたい。</p> |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者の思いを優先するように支援している。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|-------------------|-------------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 入居者の好みを大切にし、服装や髪型へのアドバイスをしている。理美容については併設施設の理容室で本人の意見を聞きながら行なっている。化粧をされている入居者もおられます。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 日曜日の夕食作りの献立を利用者と共に考え、買い物、準備、食事作り、片付けを行なっている。 | | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 施設から提供されるものを摂っていただいている。行事のときは、本人の好み物を取り入れるようにしている。 | | 体調等、考慮しできる限り利用者の好きなものを取り入れ提供していきたい。 |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。できる限り、紙おむつの使用は避け、布パンツで装着時の違和感を軽減する対応をしている。 | | おむつ着用は避けトイレでの排泄に取り組んでいる。 |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 可能な範囲で入浴していただいているが、曜日や時間帯が希望やタイミングに合わないことが多い。 | | 希望を取り入れ、好きな時に入浴できるようにしていきたい |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 個々に好きな時間に休息をして頂いている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 入居者の生活歴、性格、状態を考慮し、それぞれの個性を引き出し、できることへの参加を声かけし支援している。 | | 入居者の一人ひとりの楽しみごとを見つけ、メリハリのある生活を支援していきたい。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 金銭管理については家族の希望により、個々の力量に合わせた管理をしていただく体制となっている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 外出行事、散歩、地域への行事の参加で戸外に出られるように支援している。 | | 利用者の希望を取りいれられるような外出を支援していきたい。 |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 現在の取り組みはない | | |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 要望があれば支援できる体制はある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 訪問時には、リビング、本人の居室と好みの場所で面談できるようにしている。居室での宿泊もできるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | ユニットチーフが身体拘束委員となり、職員のケアに対して身体拘束をしないケアの取り組みを状況に応じて指導している。 | | 定期的な勉強会で身体拘束や虐待の理解を深める体制を整えていく。 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 状況に応じ必要以上に鍵をかけないように、玄関、入口の開放を実施している。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は入居者一人ひとりの行動パターンを把握し昼夜を通して見守りを行なっている。夜間は、1時間ごと巡回で安全に配慮している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 刃物などの危険なものは、職員の目が届かない時間帯は鍵をかけて管理している。その他の個々の持ち物はその方の状況で預かることもある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 緊急時のマニュアルがあり職員が内容を把握し、定期的な研修で事故防止に努めている。ヒヤリハットやアクシデントレポートの提出で事故の把握をし、事故に応じた対応方法を部署外の会議で検討、多くの意見を参考にできる体制がある。 | | |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 入居者の状況に応じて、看護師が指導している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-------------------|-------------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回の防災訓練を併設施設と行なっている。地域との合同の非難訓練を実施した。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | 状況に応じ、家族にはそのつど申し送りをを行い、今後の対応を話しあうようにしている。 | | 状態の変化に伴い、家族に申し送りをして対応について話し合っていきたい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 定期的な健康観察と看護師の巡回で変化や異変が対応できるようにしている。情報の共有ができるよう対応したことは記録に残し共有できるようにしている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 投薬シートを作成し、個々の薬の状況が把握できるようにしている。個々の処方箋を保管し、副作用、用法、用量について確認を行なっている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便習慣を把握し、状況に応じて散歩や水分補給で便秘の予防に努めている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 1日3回、歯磨きを行い、その後、イソジン液でうがいし、義歯の方は、外して洗い定期的に義歯洗浄剤を利用している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 併設施設の管理栄養士により、栄養バランスの摂れた食事の提供を行なっている。食事量や形態については個々の状態に合わせた対応をしている。水分量が不足する方は嗜好に応じた対応をしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | 感染マニュアルを作成し対応している。状況に応じて看護師が予防や対応方法について指導している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 食材の取扱時は、使い捨て手袋の着用を実施している。夜間、冷蔵庫内は消毒し、食料の管理を行い安全な使用ができるように努めている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関には椅子や植物を置いている。 | | 季節の花、植物を置き、くつろげる空間を作りたい。 |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 季節ごとに飾り付けをかえている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共用のリビング以外にも、廊下を利用したたみコーナーやテーブルや椅子を配置し過ごせるようにしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 馴染みの家具や装飾品の持ちこみを契約時に説明している。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 各居室に換気扇を設置、共同空間には空調設備や冷暖房の設備が整え、温度管理をしている。定期的に換気を行っている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 廊下や要所ごとに手すりを設置している。入居者の身長などに合わせトイレに踏み台を設置し便座の高さの調整を行っている。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室やトイレ、浴室に表札やその方の理解できる目印をつけ場所の混乱を防いでいる。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 入居者が行き来しやすい場所に物干しを作り一緒に取り組めるようにしている。状況によっては廊下に物干しを設置し入居者が一緒に取り組めるようにしている。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス すいせん

評価年月日 平成 20 年 12 月 10 日

記入年月日 平成 20 年 12 月 25 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 ユニットチーフ 氏名 藤井 康

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」を理念とし、その人らしく生活できるように支援している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | ホームの理念を具体化し、職員一人ひとりが共通の理解ができるようにしている。 | | 職員一人ひとりが理念の共有が出来るよう定期的にユニット会議を実施し、共通の理解が出来るようにしていく。 |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や家族会、入所時などの機会に理解を促している。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|------------------------------------|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 併設施設との入居者や地域住民とは散歩や行事等の参加で交流をしている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域交流の一環として地域住民と施設で合同の避難訓練を実施した。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 坂道が多い団地内の高齢者が地震や火災の時に混乱しないよう、施設が協力できることを地域代表と話し合い合同の避難訓練を実施した。 | | |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 自己評価を実施することで、ホームの役割を職員が再認識できている。評価は運営推進会議で報告し、改善については多方面からの意見を取り入れ取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議で評価報告し、改善についての意見交換を実施している。意見ですぐに取り組めることは実施している。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 地域高齢者を対象とした認知症予防についての講演を行い、認知症の理解を促した。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 入居者の必要性に応じて家族と話し合い支援している。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束委員会を設置し、実行委員のメンバーであるユニットチーフが入居者の変化や職員の対応などについて注意を払い、疑問が生じた場合は各ユニットチーフで話し合いを持つようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約、解約時には入居者や家族が不安にならないように説明し、解約後でも分からないことなどは相談してもらえようようにしている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 入居者の不満などを聞く機会は設けていない。ただし、日々の生活の中で、入居者の表情や言動に注意し意見として運営に反映させている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 月に1回の月間報告で、生活状況や健康状態など知らせている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 面会時や家族会で家族の意見を聞くようにしている。不満や苦情に対しては迅速に解決できるようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ユニットチーフが日々、職員の意見や提案を聞き取られるようコミュニケーションをとり、管理者や代表者に申し送りし、検討できるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入居者の要望や状況での時間確保はできるだけ調整している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>ホーム内での移動は定期的実施している。入居者にダメージがないようにユニット間の申し送りや応援体制で顔なじみになれるよう配慮している。職員の離職の軽減の為、定期的に個人面談を実施している。</p> | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> | <p>年間を通して内部、外部の研修をに参加できるように実施している。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>認知症実践者研修生の受け入れで交流のきっかけづくりをしている。研修などの参加で意見交換や情報交換を行っている。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>職員の意見を柔軟に取り入れる姿勢で臨んでいる。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>年に3回の査定を実施し、給料や昇給に活かしている。研修などを実施することで職員の向上心が持てるようにしている。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div> | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>入居前に事前面接を行い、本人、家族から十分に話を聞き受け入れをしている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話を聞く機会を設け、今後のことを一緒に考えるように努力している。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 入所申し込み時、今受けているサービス内容に不満や不安を漏らされたことから他の介護サービスの検討と一緒にサービス利用ができるようにした。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | ご本人の性格や今までの生活状況から、雰囲気に馴染むよう見学や遊びに来れる支援体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は一方的に介護を押し付けるようなことをせず、入居者が必要としていることを「お互い様」の気持ちで支え合うようにしている。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族面会や連絡時に入居者の状況や日常の様子を知らせ入居者が必要としていることでホームで実現が難しいことなどは家族に協力を得ている。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 家族会や施設行事の参加で一緒に過ごす機会を作る努力をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|--|-------------------|--|
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 入居者や家族と状況に応じた対応に心がけている。 | | 個々の入居者に合わせ、仏様に参る、墓参りをするなどを実施していきたい。 |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 日頃の家事の手伝いなどで入居者同士がお互いの持てる力を出し協力し合っている。 | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 契約が終了しても家族からの相談などの対応は大切にしている。入院が長期になった方は、機会があれば面会し状況を把握している。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | ゆとりを持って入居者に関わることが出来ず、それぞれの入居者の希望等の把握ができていない。 | | 職員一人ひとりが、ゆとりを持ち入居者の希望が叶えられるように意識の統一を図っていきたい。 |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | センター方式を利用し情報収集の把握を行なっている。 | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 一日の介護記録で入居者の健康面、心身状態、役割の参加などを記録し職員が把握できるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|--|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 介護計画が期間通りに見直している分は、カンファレンスを開き職員間で意見を出し合いながら作成できている。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 介護計画の期間に沿っての見直しは実施しているが、状況の変化が生じた場合も見直しが出来ておらず先延ばしになっている。。 | | 状況に応じた計画の見直し、計画書の作成をしていく。 |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | ケアの実践や結果、気づきなど、明確に記入されておらず、職員間での情報の共有が不十分である。 | | 入居者の状態の変化や気づきの記入漏れが起きないように記録方法の見直しを検討していく。個別記録の記入を職員間で意識づけていく。 |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域のボランティア活動や保育所の慰問行事で入居者の楽しみや交流の支援を行なっている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他の施設との相談員をサービス支援の相談や協力体制はできている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 必要に応じて対応していく体制はできている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 家族の意向に沿うようにしている。入居者の状態に応じた受診を家族に説明し納得していただき支援している。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 囑託医の定期的な回診で、入居者の状態を相談や助言、指示を受けている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師が常勤で勤務し、日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行なっている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入居者の性格や日常の様子を申し送りをしている。定期的な面会で状況に応じた対応をしていきたい。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|-------------------|--|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>重度化した入居者の終末期の意向を書面で聞き取りしている。入居者の意向を職員が共有できるよう書面を計画書に貼付する。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>入居者の状況変化で対応できるように、看護師がかかりつけ医と連携をとっている。変化に対しての対応はカンファレンスで職員が状況に応じての対応ができるようにしている。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>情報提供を十分に行い情報交換に努めています。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | | | |
| <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>個々の入居者に応じた対応に注意しています。入居者の状態に応じた対応が職員の一方的な考えで配慮を損なわないようにしています。</p> | | <p>入居者一人ひとりを尊重した声かけや対応を職員全員が統一できるようにしていく。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>本人の希望に沿えるよう努力している。自己決定が難しい方は日頃の言動や仕草で判断し対応している。</p> | | <p>自己決定が難しい方も その方の思いを汲みとっていけるような対応を実施していく。</p> |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者のペースに合わせていく心がけているが、勤務体制などで職員のペースになってしまっている。</p> | | <p>入居者のペースで一日を進めて行けるようにしていきたい。</p> |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 入居者の好みを大切にし、服装や髪型へのアドバイスをしている。理美容については併設施設の理容室で本人の意見を聞きながら行なっている。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 個々の入居者の状態や身体機能を見極め、準備や片付けを手伝ってもらっている。日曜日の食事づくりでは、入居者の好みを取り入れられるような献立に心がけている。 | | 日曜日の食事づくりは、職員のペースで作ってしまうことが多く、入居者に手伝ってもらった時も入居者が固定しているため別の方にも声かけし参加をもらうようにしていく。 |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 施設から提供されるものを摂っていただいている。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。 | | 排泄介助は定時のトイレ誘導のほかに、本人の訴えがあった時はもちろん、特定の入居者が徘徊を始めたときも実施している。 |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 職員の勤務時間の都合上、入浴の時間帯については制限があるが、できる限り本人の希望に合わせた入浴が実施できるようにしている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 一人ひとりの入居者の状態に応じた休息が取れるようにしている。 | | 入居者によっては、その日の体調などにより日中、居室で横になりたいと訴えられる方もいるため、本人の希望に沿った対応をしている。 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|--------------------|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。 | 入居者の状態に合わせて、食器洗いや洗濯たたみをしていただいている。 | | 1人ひとりの入居者の得意なことを役割に結び付けていきたい。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 金銭管理については家族の希望により、個々の力量に合わせた管理をしていただく体制となっている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 散歩は入居者の希望に沿ってできる限り支援している。その日の本人希望に沿った買い物や外出は予定が立てられていないと難しいところがある。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 個別対応として家族の結婚式や自宅に帰り家族と過ごせる機会を支援しています。事前に家族と日程を調整している。 | | 個々の力量に合わせて季節ごとの挨拶が出来るよう支援していきたい。 |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 要望があれば支援できる体制はある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族やなじみの人が来所された時は、職員は笑顔で明るく接するようにしています。また、来訪者と入居者が気兼ねなく過ごせるような環境をつくっています。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-----------------------|---|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | ユニットチーフが身体拘束委員となり、職員のケアに対して身体拘束をしないケアの取り組みを状況に応じて指導している。 | | 定期的な勉強会で身体拘束や虐待の理解を深める体制を整えていく。 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 入居者の状況で入り口に鍵を閉めている。 | | 鍵をかけないで対応できるようなケアが実践できるように個々の入居者の行動を職員が把握できるような体制を検討する。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は入居者一人ひとりの行動パターンを把握し昼夜を通して見守りを行なっている。夜間は、1時間ごと巡回で安全に配慮している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 刃物などの危険なものは、職員の目が届かない時間帯は鍵をかけて管理している。その他の個々の持ち物はその方の状況で預かることもある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 緊急時のマニュアルがあり職員が内容を把握し、定期的な研修で事故防止に努めている。ヒヤリハットやアクシデントレポートの提出で事故の把握をし、事故に応じた対応方法を部署外の会議で検討、多くの意見を参考にできる体制がある。 | | |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 入居者の状況に応じて、看護師が指導している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回の防災訓練を併設施設と行なっている。地域との合同の非難訓練を実施した。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。 | 入居時や個人の身体状態によって転倒や誤えんなどの起こり得るリスクを説明し、対応方法については入居者らしくを暮らせる対応に心がけている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 定期的な健康観察と看護師の巡回で変化や異変が対応できるようにしている。情報の共有ができるよう対応したことは記録に残し共有できるようにしている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 投薬シートを作成し、個々の薬の状況が把握できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便習慣を把握し、状況に応じて散歩や水分補給で便秘の予防に努めている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 1日4回、起床時、食後にうがい歯磨きを実施している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 併設施設の管理栄養士により、栄養バランスの摂れた食事の提供を行なっている。食事量や形態については個々の状態に合わせた対応をしている。水分量が不足する方は嗜好に応じた対応をしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | 感染マニュアルを作成し対応している。状況に応じて看護師が予防や対応方法について指導している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 食材の取扱時は、使い捨て手袋の着用を実施している。夜間、冷蔵庫内は消毒し、食料の管理を行い安全な使用ができるように努めている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関先に植物や利用者の作品を展示している。季節ごとの花や植物を植えるようにしている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 季節や生活スペースとして居心地が良い空間づくりに配慮している。玄関先は施設的な作りになっている。 | | 玄関周りを落ち着いた雰囲気にする為に職員で工夫をしていきたい。 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共用のリビング以外にも、廊下を利用したたみコーナーやテーブルや椅子を配置し過ごせるようにしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 馴染みの家具や装飾品の持ちこみを契約時に説明している。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 各居室に換気扇を設置、共同空間には空調設備や冷暖房の設備が整え、温度管理をしている。定期的に換気を行っている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 廊下や要所ごとに手すりを設置している。入居者の身長などに合わせトイレに踏み台を設置し便座の高さの調整を行っている。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室やトイレ、浴室に表札やその方の理解できる目印をつけ場所の混乱を防いでいる。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 入居者が行き来しやすい場所に物干しを作り一緒に取り組めるようにしている。状況によっては廊下に物干しを設置し入居者が一緒に取り組めるようにしている。 | | |